

地方創生時代における文化政策とサードプレイスの連動

～概念の再考と住民に向けた複合施設の視点への考察～

環境人間学研究科 環境人間学専攻

◎M2 ^{いとう れおん}伊藤 礼恩、教授 ^{すぎやま たけし}杉山 武志

キーワード

サードプレイス、文化政策、場所性、コミュニティ
複合施設



研究概要

本研究は、サードプレイスをコンセプトとした複合施設の整備が進む中で、学術的にその場所がサードプレイスと言えるのかを再考する。ここでの複合施設とは、図書館やコミュニティスペースなどの生涯学習や交流の場と、行政機能や文化施設機能などが複合して整備された施設とする。アメリカの都市社会学者であるレイ・オルデンバーグによって提唱された場所の概念である「サードプレイス」が近年、本研究で取り扱うような複合施設を含めたあらゆる活動の場の整備に急速に取り入れられており、こうした場所が地方創生と文化政策の接近により増加傾向にある。だが、サードプレイスの要素を取り入れた複合施設は、地域に住まう人々にとって重要な場所となるのかであろうか。また、日本国内で概念を扱うにせよ、表面的な流用に留まらず、その地域で人文地理学から必要とされる場所性を創り出すために文化政策やコミュニティの観点からの議論が必要ではないだろうか

そこで、本研究では、地域住民に本当に必要とされるサードプレイスの複合施設がどのような存在であるかという点について、文化政策・コミュニティ・場所性の3つの観点に関する現状や課題点からサードプレイス概念の学術的深耕を目的とする。同時に、兵庫県下の複数の市町村が保有する複合施設へのインタビュー調査を実施した結果から、今後の複合施設整備に向けた視点とする。それらを踏まえて、現状において漠然と用いられるサードプレイス概念を、地域住民のための概念へと昇華することが望まれる。

今回の発表では、本研究概要の内容について、概念の整理及びインタビュー調査の結果を取りまとめたものを紹介する。

アピールポイント

- ・県下、計6市町へのインタビュー調査（西脇市、神戸市、洲本市、伊丹市、太子町、川西市）
- ・これまでの地方創生において、文化政策もその一旦を担った現状があるが、経済効果に重きを置いた施策が取られてきたと言わざるを得ない。そのような状況への有効策としてサードプレイス概念への着目が起きた。
- ・サードプレイス概念の有効性が認識され、広まりを見せている。また、県内外を問わず、図書館や文化施設を組み合わせたような複合施設が散見され、そうした施設にもサードプレイス概念は取り入れられている。
- ・有用性の一方で、国の政策、特に文化政策の分野からの議論が少ないことから、本研究を通して今後の複合施設の在り方に文化政策の視点を連動させる。
- ・また、サードプレイス概念と文化政策の接近の議論に向けて、文化政策の視点に加えて、コミュニティや場所性の観点から深掘する